

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年一月度 入選句 (投稿総数三千百五十五句・小中学投句数二千六百十七句)

特選

さむいあさおふとんまいていもむしだ 大垣市 まつおか あこ(小二)

冬の朝の寒さはひとしおであり、身がひきしまる思いがしますね。今から学校となると「あと一分だけ暖まつてから着替えたい。」と瞬間が微妙ですね。「おふとんまいて」の表現が素直でかわいらしいですね。また「いもむし」に例えられたところもすてきですね。「寒さに負けず頑張つていらつしやる」様子がしつかり伝わってきました。と同時に、この寝起きの瞬時をとつても素直にうまく表現されたすてきな作品です。

ふくらんだやいたおもちと私のほっぺ 大垣市 炭電 玲亜(小二)

「おもちが大好きです」ということがよくわかります。きつとお雑煮も好き、焼き餅も好きなのでしょう。焼き加減は難しいけれども「ふくらんだおもち」の様子を「自身の不満な時のほっぺ」を思い出されたのでしょうか。素直に自分自身の表情を表現されたのはすてきですね。

いつもは穏やかな表情、笑顔あふれるご家族の様子が浮かびます。
作者の豊かな感性が感じられる作品ですね。

年賀状どんな鳥が届くかな 美濃加茂市 今井 果歩(中三)

今年は酉年ですね。「バタバタする年」と思われるかもしれませんが「福を呼び込みよい方向へ飛び立ち縁起がいい」と言われます。友達が多いのですね。思い思いのメッセージ・イラスト等楽しみなでしょう。「どんな鳥が」の表現から「元日の配達員さんの足音をじつと待ってますよ」といった様子が伝わってきます。素直な表現にひきつけられた作品です。

秀逸

しろいききばけつのこおりわれるかな 大垣市 大塚 彩友美(小二)

竹うまでみらいのわたしのせになった 大垣市 秦 柚葉(小三)

冬の雨車のまどがらくがきちょう 大垣市 高木 美咲(小四)

さわりたいてもさわれない白いき 大垣市 近藤 綸乃(小四)

雪うさぎ帰ってくるまで逃げないで 美濃加茂市 田脇 菜乃(中二)

ここちよい風と粉雪の二重奏 美濃加茂市 伊藤 颯吾(中二)

凍てる空何度も見上げ歩く街 美濃加茂市 岩永 正徳(中二)

雪だるま笑顔が不思議なみだ顔 大垣市 小林 美慧(小四)

てぶくろでにんぎょうあそびともだちと 大垣市 松岡 朋葉(小三)

ふくわらい犬のあくびとそっくりだ 大垣市 大和田 真瑚(小二)

入選

ふゆあそびこまをまわして目がまわる	大垣市	松本	浩志(小二)
とうげこうきたかぜなんかにまけないよ	大垣市	河合	俐空(小二)
ふゆのあめかぜといっしよでつめたいな	大垣市	まつおか	あこ(小二)
冬がきてしよく物たちも店じまい	大垣市	河本	じゅり(小三)
こたつがねわたしをつかまえはなさない	大垣市	加藤	彩空(小四)
きゅきゅきゅ音楽かなでるしもぼしら	大垣市	川村	瑠愛(小四)
ゆきだるまみじかいじかんともだちだ	大垣市	後藤	颯(小四)
手にのせて溶けゆく雪のはかなさや	美濃加茂市	水谷	蒼空(中三)
こがらしが私の頬をかすめゆく	美濃加茂市	藤巻	桃子(中三)
堂々と光り輝くオリオン座	美濃加茂市	山田	昇吾(中三)

入選

起立から着席させる霜柱	美濃加茂市	村瀬	光洋(中三)
真つ白な外にポツンと寒椿	美濃加茂市	佐橋	心風(中二)
足早に通る過ぎる雪雲だ	美濃加茂市	酒向	朱李(中二)
鏡見て巻き方悩む冬の朝	美濃加茂市	渡辺	留妃(中二)
川灯台見あげる先に冬の雲	大垣市	浅野	弘也(小六)
古い木のベンチにはらりもみじの葉	大垣市	近藤	恵理(小六)
初ゆめを見るぞとねたら朝だった	大垣市	小林	りん子(小三)
おもいつな今年もおわりじよ夜のかね	大垣市	ささ木	ゆい名(小二)
たこあげが空のおくまでとんでいた	大垣市	よしだ	そうすけ(小二)
もうまけないとびこんでとるかるたふだ	大垣市	加代	幸汰(小二)

選者吟

占は豊作と出て小豆粥

勝子